

平成 24 年 12 月 25 日

# バンコク日本人学校だより 2

平成 23 年度派遣 泰日協会学校（バンコク日本人学校）板倉 亨

今回は、タイ国内のチェンライ県へ研修に行った様子をレポートします。バンコク日本人学校では、職員集団で研修旅行を企画しています。現地の学校へ赴き、児童や先生方と交流することを通して、タイ王国に対する理解を深めることが目的です。

チェンライ県は、タイの最北に位置し、ミャンマー、ラオスとの国境地帯にあります。古くは、麻薬の産地だったのですが、現在の国王である、ラーマ 9 世が、麻薬からコーヒー豆への転作をすすめて、現在では、麻薬は生産されていません。

研修は 2 日間にわたって行われました。初日は「ライバーンポングナムローン学校」という学校で主に交流を、2 日目は、「サハサートスックサー学校」という学校で現地の児童・生徒に授業を行いました。

「ライバーンポングナムローン学校」には、4WD 車でぎりぎり登ることができる急勾配を約 1 時間走った場所にありました。ここでは主に児童との交流ということで、日本の遊びを一緒にしたり、スポーツを楽しみました。日本の遊びの中では、「だるまさんが転んだ」が現地の子どもたちに大好評でした。山の中腹にある学校です。どうやって学校まで登校するのか聞いてみたのですが、「家はすぐそこ。」と指さして教えてくれた場所には、森しかありませんでした。子どもたちは元気いっぱい、日本人に会うことをとても楽しみにしてくれていたそうです。



「サハサートスックサー学校」では、本校の 3 人の教員で中学 2 年生に授業を行いました。事前のリクエストで、普段行うことのできない、日本の学生がしているような学習をしたいというものがありましたので、職員で相談し理科の科学実験を行うことにしました。私は、厚紙を使ったブーメランの作り方を教えました。現地の学校では、物資が不足しているため、バンコクでハサミやステイプラーを準備し、持って行きました。当日は、タイ語を使い授業をしました。足りないところは全てゼスチャーで補いました。（ゼスチャーの比率の方が高かったかもしれません。）比較的器用な生徒が多く、作成にそれほど時間はかかりませんでした。できあがったブーメランを屋外で飛ばしたのですが、はじめはうまく返ってこず、悪戦苦闘していました。タイの遊びはサッカーが中心で、「投げる」という経験がほとんどないので、何度か練習を重ねて、初めて自分の投げたブーメランが戻って来たときの表情は、無垢の笑顔でした。



## 【ライバーンポングナムローン学校訪問】

校舎の全景です。見て分かるとおり、高床式になっています。これは、蛇や獣から身を守るためだそうです。



子どもたちの掃除の様子です。学校の中では基本的に靴は履きません。これぞ裸足教育といった感じです。



## 【サハサートスックサー学校訪問】

歓迎のレセプションをしていただきました。子どもたちが山岳少数民族の衣装を着てくれています。



授業後の記念撮影です。民族衣装を着て学校に来る日が週に1度あるそうです。



2日間の研修を終えて、どこの国でも子どもは同じと感じました。新しいことに戸惑わず、あっという間に順応して、自分のものにしてしまうその力は、日本の子ども、タイの子ども、共に素晴らしいと感じました。

しかし、取り巻く教育環境には、大きな違いがあります。少数民族の村では、大切な働き手として、子どもを学校に行かせない家庭も多いそうです。学ぶことで、代々受け継がれてきた仕事から他の仕事へ興味に移ることを良く思わないケースもあります。日本の子どもたちは、学ぼうと思えばいくらでも学べる子どもがほとんどです。有り難いことだと思います。帰国したときに、学べることの尊さを教えることのできる教員にならなければと、心を新たにしました2日間でした。